

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

長野県 長和町

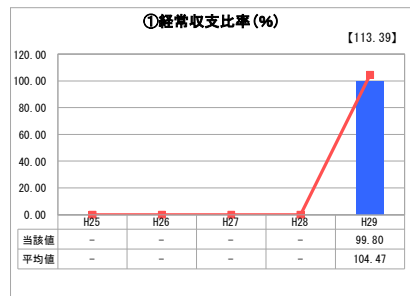
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	61.14	118.40	2,700	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,223	183.86	33.85
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,329	183.86	39.86

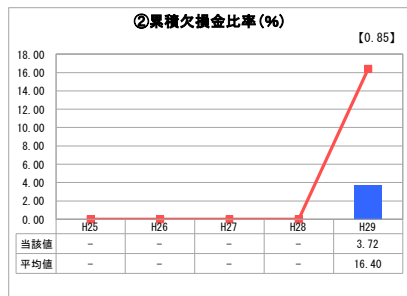
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

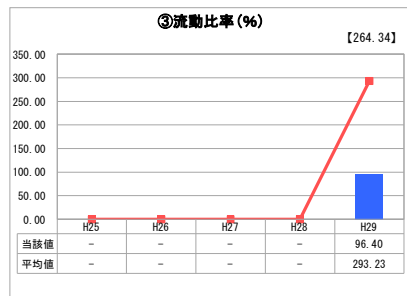
## 1. 経営の健全性・効率性



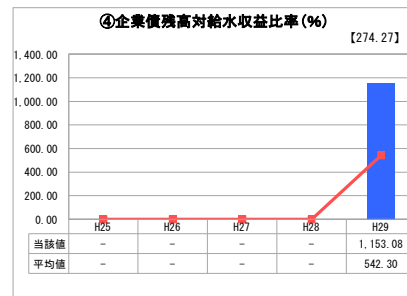
「経常損益」



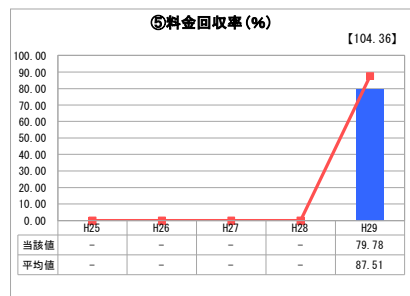
「累積欠損」



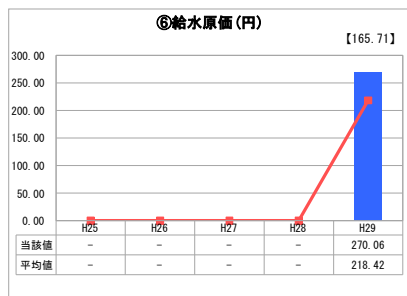
「支払能力」



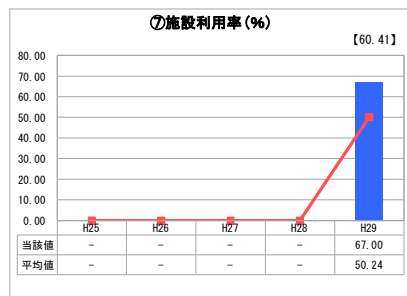
「債務残高」



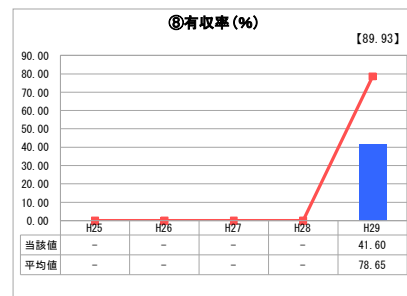
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

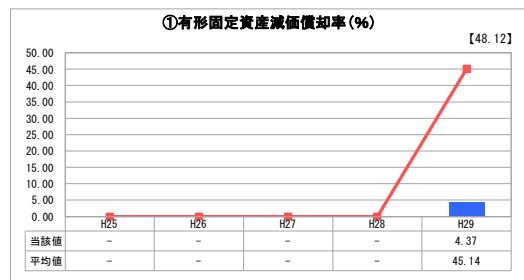


「施設の効率性」

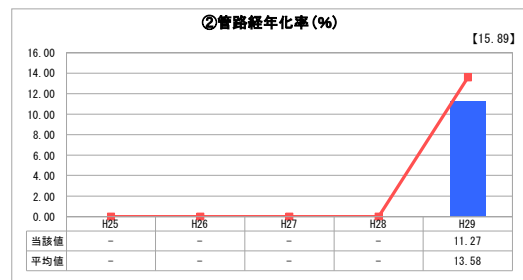


「供給した配水量の効率性」

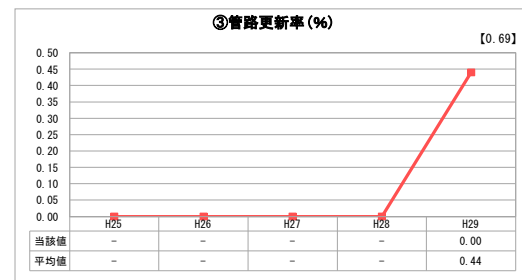
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

損益・欠損・支払能力に該当する数値については、企業会計初年度であり、判断出来る段階ではない。債務残高が高いのは、平成17年合併以降、老朽管路・施設の更新を行った為であり、老朽化対策がなされ、安定した水供給が適正になされていると考えられる。供給した配水量の効率性にも現れているが、人口減少に伴う給水人口の減少から配水量・管路の効率性は低い。このことから、平成31年4月1日料金改定を施行する事で、累積赤字に陥らぬよう健全経営を図る。

有収率が低いことについては、漏水修理した場合に減免措置があり、寒冷地である事から減免分の水量が多い事、また、未更新の別荘地区本管の漏水があるためと思われるので、本管の更新計画について検討をしているところである。

### 2. 老朽化の状況について

老朽化している施設については、平成29年度以前に9割程度更新を行い、別荘1地域の更新を残すのみとなった。今後は15年後の町内配水管更新に向け準備を始める。

### 全体総括

平成31年4月1日に約1.3%の料金改定を行う事で経営の健全性改善を図る。今後は老朽化してくる10年以上先の更新に目を向け適正な料金改定を実施してゆく。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。